

研究部だより

令和5年
8月31日(木)発行
第2号
文責：加藤、宮崎

2学期が始まりました。行事も多く一番充実している時期です。

暑さに負けず、ギアチェンジしながら仕事を進めていきましょう！今回は小中学部の授業実践と前期の授業参観週間の考察をお送りします。日頃の授業づくり等で役立つ情報があれば、幸いです。

ICT を活用した授業実践①

小学部5年 生活単元学習 単元名『校外学習 事後学習』

題材名「校外学習のまとめをしよう」

授業者

鈴木（千）、上野、高辻

対象生徒の様子

- これまでの学習で校外学習についての概要や体験学習でどんなことが楽しみなのか iPad のアプリ Pages でまとめている。
- iPad の使用経験があり、基本的な操作（写真撮影、Pages を使用してまとめるなど）ができる。難しい操作が入る場合は手伝ってほしいことを教師に伝えることができる。

ICT 活用の意図

- 今後、タブレット端末を使用した学習も想定されるため、基本的な操作の確認と自分の思いや考えを表現できる課題を設定したいため。

ICT 活用の成果

- ワークシートのまとめを行う前に、教師が作成したまとめ動画を視聴することによって校外学習を思い出しながら学習を進められた。
- 事前学習で作成したワークシートを見ながら振り返りを行った。中には「〇〇が上手くできなかった。」と自分でできなかった学習があったことを反省し、ワークシートの欄に三角マークを付けている児童もいた。振り返りをするという部分ではワークシートを活用できて良かった。
- 思い出の写真には、校外学習で撮影した写真を 挿入→選択→大きさの調整 をしてまとめることができた。

その他

- 活用したアプリ「写真」、「iMovie」、「Pages」

できたワークシートを友達に見せたりして主体的に関わっていました！



ICT を活用した授業実践②

中学部 1年 日常生活の指導 題材名「朝の会の司会をしよう」

授業者

MT 工藤

ST 木村、加藤、両角

対象生徒の様子

- iPad の簡単な操作は理解している(タッチやホームボタンを押すなど)。
- 家庭では余暇の一環としてタブレット端末を使用している。
- 興味のあるところをタッチしてしまったり、連打したりしてしまうため誤操作につながってしまうことがある。

ICT 活用の意図

- タブレット端末を自分で操作することで、少ない支援で日直の仕事を進めることができるようにする。
- 発語がなくても、音声を再生することで、他の生徒とのコミュニケーションに繋げたい。
- タブレット端末を学習の中で使用し、余暇活動以外の使用方法でも興味を示してもらえるようにしたい。
- タブレット端末やアプリケーションの機能を活用することで、誤操作を減らしたい。

ICT 活用の成果

- 連打しても音声の再生が終わるまで次のスライドに移動しないため、生徒の誤操作が減った。
- 画面のどこを触っても音声再生されるため、やり直しなどの回数が減り、一人でも日直を進めることができるようになってきた。
- 教師が間に入らなくても生徒同士のやりとりができるようになってきた。
- 毎回同じ内容のため、操作や流れがわかりやすく、タブレット端末を日直の仕事で使用する物という認識ができつつある。
- 生徒が一人で進めることができる場面と支援が必要な場面がわかったことで、教師側の支援の量を調整する判断材料になった。
- 発表や報告などでも活用できる場面があり、汎用性があった。

その他

- 活用アプリ 「ぼいすぶっく」
- 活用機能 「アクセシビリティ」

